

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 09年6月 ～4-6月期は5四半期ぶりの増産

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 4-6月期の生産は前期比8.3%

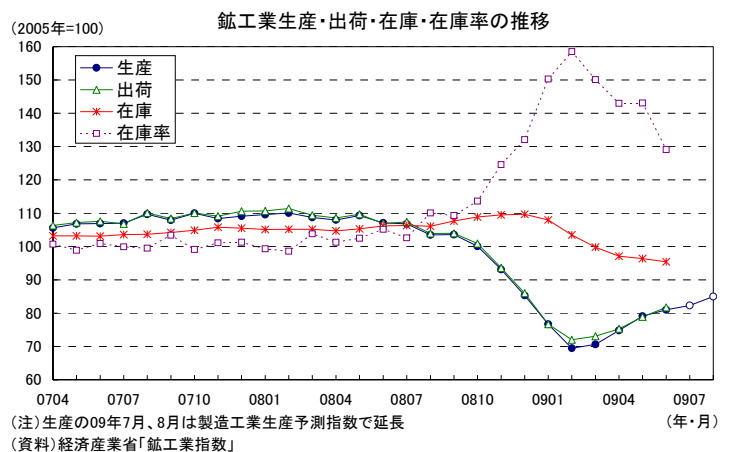
経済産業省が7月30日に公表した鉱工業指数によると、6月の鉱工業生産指数は前月比2.4%と4ヵ月連続で上昇し、事前の市場予想（ロイター集計：前月比2.4%、当社予想は同2.0%）通りの結果となった。生産指数は3月からの4ヵ月間で16.5%上昇した。出荷指数は前月比3.5%と4ヵ月連続の上昇、在庫指数は前月比▲1.0%と6ヵ月連続の低下となった。5月に3ヵ月ぶりに上昇（前月比0.1%）した在庫率指数は前月比▲9.8%の急低下となった。

6月の生産を業種別に見ると、大幅増産が続いていた輸送機械は前月比0.7%と低めの伸びにとどまったが、在庫調整の進展が続く電子部品・デバイスが前月比12.5%と4ヵ月連続で二桁の伸びとなった。また、設備投資の急速な落ち込みに伴い低迷が続いていた一般機械は、前月比2.6%と2ヵ月連続で上昇した。

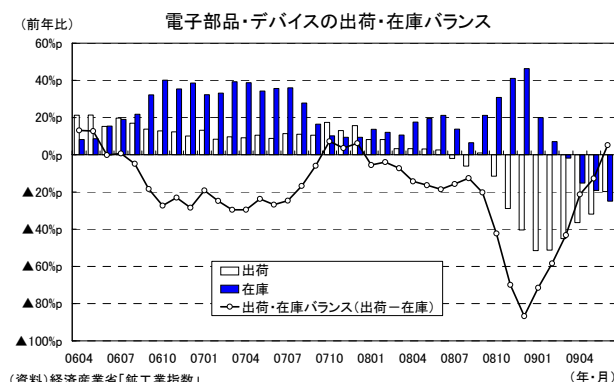
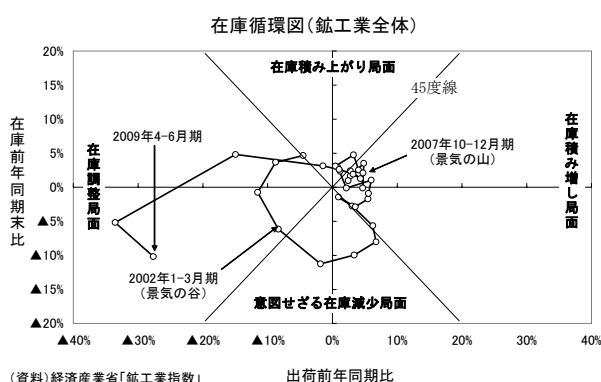
速報段階で公表される16業種中、12業種が前月比で上昇（4業種が低下）となり、増産の動きは裾野の広がりを見せ始めている。

4-6月期の生産は前期比8.3%と5四半期ぶりの上昇となった。業種別には、輸送機械、電子部品・デバイスがそれぞれ前期比17.2%、36.3%の高い伸びとなり、4-6月期の生産増加の6割以上がこの2業種によるものであった。一方、一般機械は前期比▲15.1%と3四半期連続で二桁の減少となった。

4-6月期の在庫循環図を確認すると、引き続き「在庫調整局面」に位置しているが、1-3月期に比べると在庫調整終了局面に近づいた。出荷の減少幅が1-3月期の前年比▲33.5%から同▲27.6%へ縮小する一方、在庫の減少幅が1-3月期の前年比▲5.2%から同▲10.2%へと拡大した。業種別には、昨年末にかけて在庫の大幅な積み上がりが見られた電子部品・デバイスの在庫調整の進展が顕著となっている。同業種の在庫指数は1月からの6ヵ月間で▲37.9%低下する一方、出荷指数は



2月からの5ヵ月間で56.4%上昇している。この結果、6月の出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は+5.1%ポイントとなり、1年半ぶりにプラスに転じた。



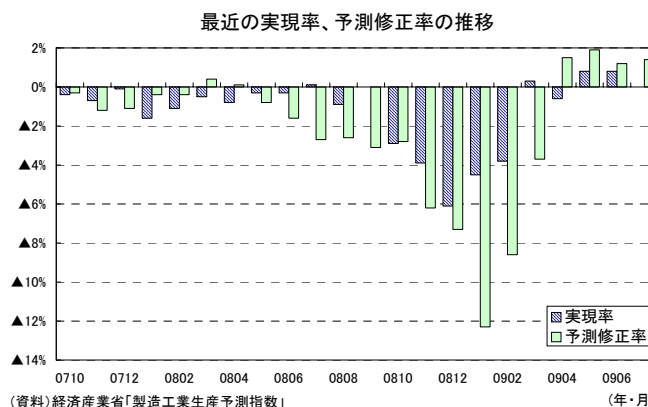
財別の出荷動向を見ると、設備投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は1-3月期に前期比▲19.2%と急速に落ち込んだ後、4-6月期も同▲17.2%の大幅減少となった。一方、消費財出荷指数は1-3月期の前期比▲20.4%の後、4-6月期は同10.3%の上昇となった。

1-3月期のGDP統計では、民間消費が前期比▲1.1%、設備投資が前期比▲8.9%とともに大きく落ち込んだ。4-6月期は、設備投資は引き続き減少するものの、民間消費は定額給付金の効果などもあり、3四半期ぶりに増加すると予想している。

2. 7-9月期も増産へ

製造工業生産予測指数は、7月が前月比1.6%、8月が同3.3%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（6月）、予測修正率（7月）はそれぞれ+0.8%、+1.4%となった。実現率は2ヵ月連続、予測修正率は4ヵ月連続でプラスとなっており、企業の生産計画が上方修正される傾向が続いている。

鉱工業生産指数の水準は昨年秋以降の大幅減産に伴い、ピーク時（08年2月）の63%まで落ち込んだが、7月、8月の生産計画が実現したとすれば、77%程度まで戻ることになる。



6月の生産指数を7月、8月の予測指数で先延ばし（9月は横ばいと仮定）すると、7-9月期の生産指数は前期比7.4%の上昇となる。7-9月期の鉱工業生産が2四半期連続の増加となることはほぼ確実で、生産計画の上方修正が続いていることを考慮すれば、4-6月期を上回る増産ペースとなる可能性もあるだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。